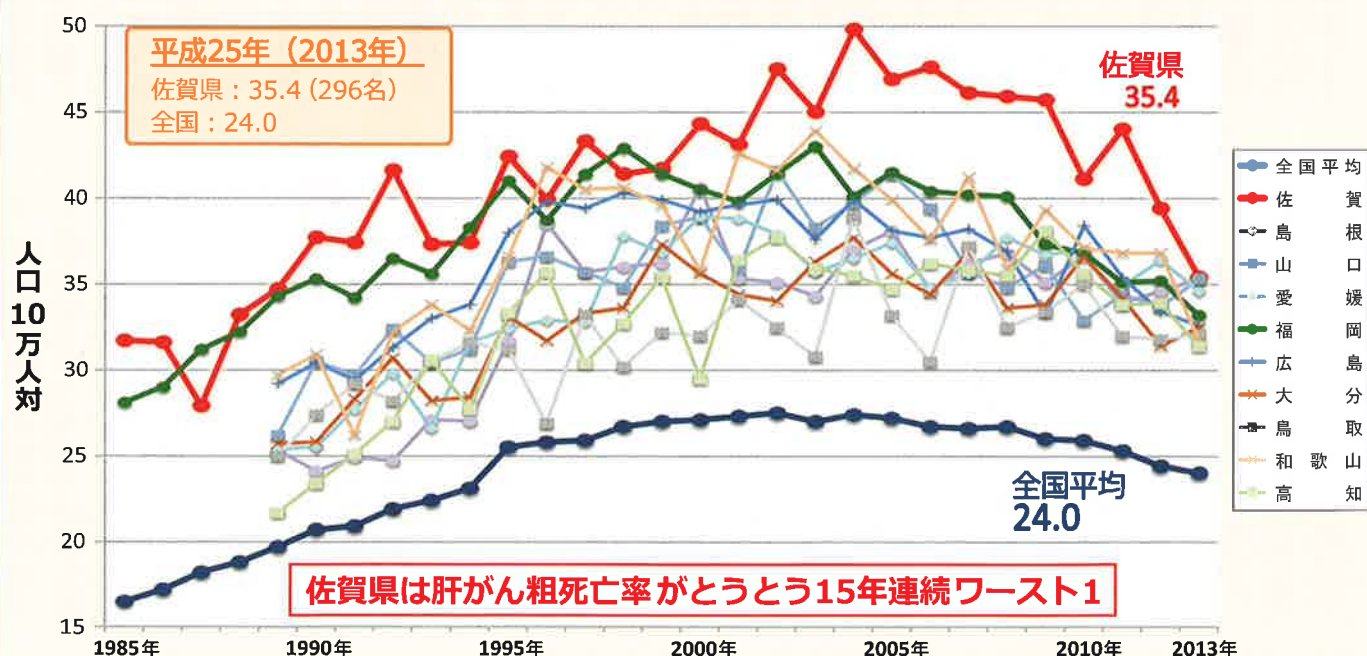


肝がん粗死亡率 ワースト1 を返上するために

佐賀大学医学部肝疾患医療支援学講座 教授

佐賀大学医学部附属病院肝疾患センター センター長 江口有一郎 先生

肝がん粗死亡率年次推移 (1985~2013)



はなわさんの「い肝ば、いかん」のテレビコマーシャルを覚えていますか？佐賀県で肝がんが大変な問題となっていることや、「肝炎ウイルス検査を受けましょう！初回は無料！」ということが繰り返し放送されていました。その甲斐もあって、佐賀県肝疾患診療ネットワーク医療機関での検査や健康診断では、平成25年度には新たに約2万人の県民の皆さんが肝炎ウイルス検査を受けられたそうです。

昨年9月に総務省統計局から平成25年の人口動態統計の死因別の死亡率が公表され、佐賀県の肝がんの粗死亡率が残念ながら15年連続ワースト1位になりました。

肝がんは、お腹の右上部にある「肝臓」に出来るがんで、約9割はC型肝炎ウイルスやB型肝炎ウイルスといった肝炎ウイルス感染が原因です。佐賀県では、特にC型肝炎を原因とする肝がんで亡くなる人が10万人あたりで最も多く、肝がん全体では、年間で約350人が亡くなられています。

ウイルス性肝炎から肝がんにならないためには、それらのウイルスを体内から消し去ることが最も効果的です。そして最近の研究では、C型肝炎は肝臓が傷んでしまう前にできるだけ早く治療をすること、つまり肝臓で長い間の炎症が続いて肝臓が硬くなってしまいう前に、ウイルスを体内から消すことが肝がんの発症を減らすために重要であることも分かってきました。

今回は、よく質問を頂く内容にお答えする形で、佐賀県の肝がん対策についてご説明します。

質問1

なぜ肝炎ウイルス検査を受けないといけ ないのですか？

◆お住まいの市町や職場で行われる健康診断では、40歳以上になれば血液検査が行われると思います。そこではASTやALTといった、肝臓が障害を受けた時に数値が上がる、いわゆる「肝機能検査」が実施されますが、それではB型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスに感染しているかどうかは分かりません。肝炎ウイルスの感染の有無を調べる検査が必要ですが、普段の血液検査の項目に加えて同時に行うことが出来ます。

◆これまで受けたことがない人は、健康診断の受付の際に、ぜひ保健師に「肝炎ウイルスの検査もしたい」と言ってみてください。また、他の病気の治療で医療機関に通院している人は、次の受診の際に、ぜひ担当の医師に「私はこれまで肝炎ウイルスの検査はしていますか？」と聞いてみてください。県内の多

くの医療機関で検査を受けることが可能です。そして初回は無料です。まずは、県民全員が一度は肝炎ウイルス検査を受けましょう。

質問2

肝炎ウイルス検査で陽性と言われました。陽性とは何ですか？

◆肝炎ウイルス検査が「陽性」ということは、あなたが肝炎ウイルスに感染している可能性が高いということを示します。肝炎ウイルスに感染していれば、肝臓で炎症が起こり、肝臓がどんどん傷んでいく可能性があります。

質問3

肝炎ウイルス検査で陽性でした。身体は何ともないのですが精密検査は必要ですか？

◆はい、必要です。出来るだけ早く精密検査を受けてください

(検査費用は補助があります)。精密検査は、血液検査や腹部超音波検査などを行います。ほとんどの場合、おおよそ2〜3回の外来通院で可能です。

◆精密検査の結果、治療が必要な状態であれば、速やかに治療を受けてください(治療費助成制度があります)。C型肝炎では、最新の治療法によって時期を逃さなければ、9割以上の成功率でウイルスを消すことが出来るようになります。



ウイルス性肝炎は症状もないのに、なぜ治療が必要なのか？

◆肝炎ウイルスが身体の中に入ると、いわゆる「感染」すると、肝炎ウイルスは特に肝臓の中の「肝細胞」に入り込みます。そうになると、人体としては身体からウイルスを消すために、肝炎ウイルスが感染した肝細胞をどんどん壊します。これが肝炎です。そしてこの肝炎が長い間続けば、肝臓はどんどん硬くなっていきますので、肝臓はだんだん傷んでいくこととなります。またその間、不思議なことに痛みや熱などの症状はほとんどありません。肝臓の炎症を放置して手遅れにならないために、早期にウイルスを体内から取り除いたり、量を減らしたりする治療が必要です。



ウイルス性肝炎の治療は副作用が大変と聞いたので治療が不安です

◆約20年前に、ウイルス性肝炎の治療として「インターフェロン」という注射薬による治療が始まりました。これまで不治の病といわれたウイルス性肝炎が治るチャンスが出てきたのですから、当時としては最新の治療でした。しかし、初期は連日、または週に3回の注射が必要でした。また、インフルエンザに似た高熱や節々の痛み、「うつ症状」といわれる精神的な副作用が強くみられました。当時は5〜10%の効果しか見られなかったため「きつい、くるしい、効かない」という評価が長く続いてきました。

◆しかし、約20年をかけて治療方法も劇的に進歩しました。C型肝炎では治療期間も24週間に短縮され、効果はなんと約90%になりました。また、平成27年2月現在では、医学的にインターフェロンが使えない人や、これまで

インターフェロンの効果がなかった人に対して、初の飲み薬だけの治療法も出てきました。いずれも大きな副作用は減りました。また、B型肝炎の治療もインターフェロンの治療に加えて、飲み薬だけで劇的に血液中のウイルス量を減らして肝炎を抑え込むことが出来るようになりました。

◆したがって、B型肝炎、C型肝炎、いずれも「副作用で悩まされる時代は過去の話」になったのです。自分の年齢や体力に合わせた治療法で、肝炎ウイルスをやっつけましょう。

おわりに

◆今回は主にB型肝炎、C型肝炎についてご説明しました。これまで検査を受けていない人は、今年こそは肝炎ウイルス検査を受けてください。そして肝炎ウイルスに感染していることが分かった人は、出来るだけ早くウイルスを身体から取り除く治療

を受けてください。これだけで、必ず佐賀県から肝がんは減ってくるのです。

佐賀県から肝がんを減らすために

- 1) 県民全員が一度は肝炎ウイルス検査を受けましょう。
- 2) もし肝炎ウイルス検査の結果が陽性であれば、精密検査を早く受けましょう。
- 3) 精密検査の結果、ウイルスを駆除することが必要な状態であれば、速やかにウイルスをやっつける治療（抗ウイルス治療）を受けましょう。仕事や家事を続けながら治療が出来る時代になりました。



肝がん粗死亡率ワースト1 からの脱却に向けて

佐賀県健康福祉本部 健康増進課 がん対策推進担当

TEL : 0952-25-7074

●佐賀県の4つの助成制度

佐賀県では、現在、様々な肝疾患対策を推進していますが、今回はそのうち4つの助成を紹介します。

1 肝炎ウイルス検査費の助成

より多くの方が肝炎ウイルス検査を受けることができるよう、職場で受けられる職域出前検診や医療機関で受けられる検査、保健所での検査をいずれも無料で実施しています（佐賀県にお住まいで今まで肝炎ウイルス検査を受けたことが無い20歳以上の方が対象です）。

2 初回の精密検査費の助成

ウイルス検査の結果、陽性反応が出た場合には肝炎ウイルスに感染している可能性があるため、肝臓の精密検査が必要になります。通常、精密検査は3割負担の方で6,000～7,000円程度の費用が必要になりますが、初めて受ける精密検査に関しては、検査費の助成を実施しています。医療保険各法の自己負担割合に応じて、1割負担の方は上限1,700円、2割負担の方は上限3,400円、3割負担の方は上限5,000円の助成を行っています。必ず精密検査を受け、ご自身の状態をしっかりと確認し、適正な治療に結びつけましょう。

3 定期的な検査費の助成

B型またはC型肝炎ウイルスの感染を原因とする慢性肝炎、肝硬変及び肝がんの方が受けている定期的な検査費用についても、非課税世帯の方は自己負担額の全額、課税世帯の方は上限5,000円の助成を実施しています。佐賀県の指定する医療機関での定期検査が対象となりますので、専門の医療機関での定期的な検査を受けましょう。

4 肝炎ウイルス治療費の助成

肝炎ウイルスを除去するには抗ウイルス治療が必要になります。抗ウイルス治療は、インターフェロン治療など（注射とお薬の治療、お薬だけの治療）のことを指し、月8～25万円程度の費用が必要になります。助成制度を使えば、自己負担額がひと月あたり1万円または2万円で治療を受けることができます。

このように、4つの助成を実施している佐賀県の取り組みは、全国的にみても肝炎対策が充実した県とされています。佐賀県では先進的な肝炎対策を進めていますが、まだ佐賀県にお住まいの方の半分以上が肝炎ウイルス検査を受けていません。もし、まだ肝炎ウイルス検査を受けていなければ、まずは検査を受けて、肝炎ウイルスに感染していないかどうかを確かめてください。そして、陽性となった場合には、助成についてお近くの保健福祉事務所または県健康増進課にご相談ください。